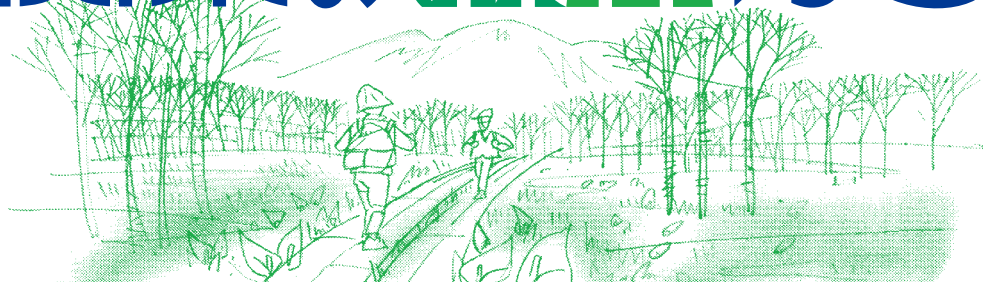


平成19年12月1日

第45号

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL (027)210-1158

FAX (027)210-1159

<http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/>



八海山（新潟県南魚沼市）  
（撮影：中越森林管理署 櫻井 勝氏）

特集 … 「子ども樹木博士」認定活動について  
指導普及課

私の視点 「三面川の鮭と「さけの森林づくり」」  
三面川鮭産漁業協同組合  
代表理事組合長 高橋 昭太郎 氏

森林官からのおたより  
塩那森林管理署 矢板森林事務所  
首席森林官 栗田 喜則



広報「関東の森林から」は、日本の森林を育てるため間伐材を使用しています。

# 子ども樹木博士認定活動について

## 指導普及課

関東森林管理局では、従来から、森林教室、体験林業等の実施やこれらの活動の場となる「遊々の森」を設定し、森林環境教育の推進に取り組んできたところです。

今回、森林環境教育の取組の一つとして、樹木にふれあい、学びながら森林・林業に興味を持ってもらうと、子ども樹木博士認定活動を行いました。

子ども樹木博士は、子どもたちをはじめとして多くの人達にいろいろな樹木の名前や特徴などを知ることを通じて森林に親しんでもらう野外



小根山森林公園にて



認定証を受け取る児童

活動の一つのプログラムです。

### 小根山森林公園編

10月17日(水)、小根山森林公園において、安中市内の小学校三年生37名が参加して樹木の名前や特徴、木材としての使われ方等を学習しました。

安中市松井田町にある小根山森林公園は、日本各地の樹木だけでなく外国の樹木が植えられた見本林を森林公園に指定した場所であり、樹木の学習をするにはうってつけの場所です。



局構内の樹木を利用して

### 局構内編

翌週の10月25日(木)には、関東森林管理局構内の樹木を利用して、前橋市内の小学校三年生64名がチャレンジしました。

児童の皆さんは、ホオノキの葉っぱやカリンの実をさわってみたり、スギ・ヒノキの葉っぱの匂いを比べたりと、普段の授業とはひと味違う時間を過ごしました。

当日、児童の皆さんは、実際に木の肌に触れたり、葉っぱの匂いをかいてみたり、実を割って中を見たりと、樹木博士を目指し、真剣に取り組んでいました。  
また、展望台からオオカエデの種を落とし、種がぐるぐる飛び回りながら落ちていく実験をみんなで行いました。



ブックシェルづくりに熱中

樹木とふれあった後に、局大会議室で木工教室を行いました。

局職員指導のもと、スギ間伐材を利用したブックシェル(本立て)を、児童2人1組に分かれて組み立てました。

慣れない手つきで金槌で釘を打ったりして、1時間ほどで完成。できあがったブックシェルを学校に持ち帰りました。

関東森林管理局では、次代を担う子どもたちに、森林・林業のことを知ってもらい、木材利用の意義や森林の持つ多面的機能等について考え、ひいては自然の大切さを学び、愛する心を育んでもらうため、これから森林教室や体験林業等を実施し、森林環境教育の推進に取り組んでいきます。

# 赤谷プロジェクト 近況報告

## 赤谷プロジェクトを支える

### もう一つの方 サポーターの取組について

今年の紅葉は、やや遅れたようですが色づきは昨年よりも良かったのではないのでしょうか。紅葉の「赤谷の森」に、今月も20人程のサポーターが様々な地域から集まり、さわやかな汗をかかれました。

赤谷プロジェクトでは、プロジェクトの理念に共感し、プロジェクトの目標実現にボランティアで協力頂ける方を対象に、プロジェクト・サポーターを募っています。そして毎月の第一土曜日、日曜日を「赤谷の日」と名づけ、「いきもの村」を中心に様々な活動を行っています。

「赤谷の日」の活動内容は、自然環境のモニタリング調査として、ホンドテンの調査、広葉樹の結実豊凶調査、猛禽類調査、センサースカメラによる調査などがあります。

また、地元の方を講師に招いた炭焼き、炭俵作りを通して森と人のかわりを考え、さらに、環境教育の拠点としての「いきもの村」等の整備も行っています。サポーターはこれらの活動の中から興味を持ったメ



ホンドテンのモニタリングの様子

ニューを選び参加します。さらに、こんなことをやってみたいというものがあれば、提案していくことも出来ます。

赤谷プロジェクトのホームページには毎月の活動報告が載っていますので、興味を持たれた方はご覧下さい。そして、「赤谷の日」の活動に参加してみませんか。皆様の参加をお待ちしています。

## 赤谷の森の

### 自然散策について

この取組は、赤谷センターが主催となり昨年からは始まった活動です。今年も季節により様々な姿を見せる「赤谷の森」を近隣の方に知ってもらおうと、春、秋、冬の3回を企画しています。今回は、紅葉の赤谷の森

で自然散策を実施しました。

自然散策が行われたのは赤谷プロジェクトで主として環境教育のための研究及び実践のエリアとして位置づけているエリア2の小出俣沢沿いの森林です。

最初に「赤谷の森」について、そしてこの森を舞台に進められている「赤谷プロジェクト」について、その概要を解説しました。続いて紅葉真っ盛りの森林の中を、紅葉の仕組みや周辺の植生等の話を交えるなど、森林の役割や生態系について解説を行いながら歩きました。

また、散策路の途中には昨年、プロジェクトで設定した試験地があります。カラマツ林を带状に伐採し、自然に復元して行く過程を動植物相の変化からモニタリングしているも



結実豊凶調査の様子



自然散策では大カツラの前で記念撮影

ので、ここではプロジェクトで行っている自然再生の取組について解説することができました。

この他、溪流沿いに広がる二次林では、木登りの際にできたクマのツメ跡など森に残された動物の痕跡やかつて薪炭林として利用されていた証しともいえる炭窯跡を案内し、動物と森林の関わり合いをはじめ、過去における人と森林とのつながりにについても解説を行いました。

散策終了後のアンケートでは、プロジェクトの取組に関心が持てた、また機会があれば赤谷の森を訪れたい、などの意見が寄せられました。

なお、今回の自然散策は来年の2月を予定しています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

# 各署便り

## 秋の瀬尻ウォーキング開催

**【天竜署】** 10月26日(金)、小雨が降り空気が肌寒く感じるなか、天竜美林の中心である瀬尻国有林(浜松市)で、天竜流域林業活性化センターとの連携による国有林現地見学会を開催しました。この企画には開催を心待ちにしていた市民・緑のオーナーなど予定人員をはるかに超える90名が参加しました。



展示林に見入る参加者

瀬尻国有林は、「もうかる林業」をめざし天竜林業を盛業に導いた金原明善翁が明治時代から大正時代後期にかけて天竜川下流域の治山・治水のために行った植林活動の中心地で、

その当時植えられ、現在120年生のスギ展示林があります。

当日は、あいにくの天候でしたが、ウォーキングに先立ち署長から「先人の残してくれたこのすばらしい瀬尻国有林をよく観察し、先人達がどんな思いで植えたのか、その思いを感じていただきたい。」との話があり、その後、参加者は、スギ展示林の見学や約1.5kmのウォーキングを楽しみました。途中瀬尻森林官等による森林施業の説明や、県林業試験場で研究職をされていた鈴木久雄先生による地域の植物についての話にも耳を傾けていました。

参加者からは、「スギ展示林が長期計画に基づき管理され守られている。大変さがよく分かった。」「参加して良かった。」との声が多く聞かれました。(流域管理調整官 二村安平)

## 山梨県「森林のフェスティバル」に参加

**【山梨所】** 10月20日(土)と21日(日)の両日、甲府市小瀬スポーツ公園で、山梨県主催による「平成19年度ふるさと特産品フェア」として、「森林のフェスティバル」「農業まつり」「商工会むらおこし物産展」「やまなしの県産品フェア」が開催されました。

フェスティバルが開催された両日は、素晴らしい快晴の秋空に恵まれ、多くの県民の方々が訪れました。



いろいろな木製品に注目が集まりました

当所では、打ち出し材を加工して作成した椅子やテーブル、フジツルで編んだカゴなどを出品し、木製品のぬくもりや手触りの良さを多くの来場者にも実感していただきました。

特に、丸太を加工して作成した椅子は、椅子として使用するばかりではなく、「植木を載せる台として使用する。」「短く切って、玄関に置いて踏み台として使用する。」など、購入した方がひと工夫して使用する、木製品ならではの良さが発揮され大変好評でした。(広報連絡官 生方啓司)

## 「鬼太鼓の森づくり」植樹祭を開催

**【下越署】** 歴史と芸能の島、新潟県佐渡島において、10月20日(土)、局長指導普及課長出席の下、「鬼太鼓の森

づくり」植樹祭が開催されました。前日からの秋雨により、植樹会場である新穂山国有林(S43・トキの保護のため国有林が買い上げ)での植樹が心配されましたが、植樹する時間だけはなぜか雨もなく、無事、250本のケヤキなどを植えることが出来ました。

その後、言うまでもなく、どしゃ降りの雨模様となりましたが、植樹時間だけはまるで雲の上にいる風神・雷神さま(たしか雷太鼓あり)が、「雨をかんべんしてやろう」とつぶやいているような晴れ間となりました。

今回植えた木が成木ののちに、鬼太鼓の原料になるという、気の遠くなるような夢ある計画でもあり、はるか400年後は地元産の木を使い、鬼が力強く太鼓を鳴らし、空の上では何百羽のトキが飛び・舞う姿を想像したくなるような植樹祭でした。



大木になれ太鼓の木!!

(流域管理調整官 富樫仁栄)

「請負事業者等安全・業務研修会」を開催

「村上支署」労働安全作業に対する意識の高揚と自主施工管理の一層の徹底を図ろうと、今年度発注し、現在施工中の現場の代理人・主任技術者と支署の業務担当者が出席し研修会を10月11日（木）に開催しました。

関川村の藤沢川治山資材運搬路新設工事現場では、法面緑化工、コンクリートウォール土留工やダンプトラックによる残土運搬など実際の作業状況や作業形態を見て、自分の担当する各工事現場と照らし合わせるなど、安全対策等について熱心な意見交換を行いました。

その後、会場を支署会議室に移し、全国や新潟県及び国有林野事業にお



請負事業者等安全・業務研修会

ける労働災害発生状況等パソコンを使用し、災害事例やその対策などの分析を行いながら類似災害の未然防止を呼びかけ、続いて治山業務担当者より工事着工から完成までの事務の流れや提出書類作成の手順、工事完成写真の撮影方法等の説明を行いました。

最後はお互いに労働安全衛生の確保について、一層の強化を図ることを改めて再確認し、有意義な研修会を終了しました。

(業務課付 杉山茂人)

低コスト路網作設の現地研修会を開催

「福島支署」9月20日（木）福島森林管理署、阿武隈川流域林業活性化センター及び古殿町の共催により、低コスト作業のモデルである、安くて長持ちする作業道で、全国的にも注目を集めている「四万十式道づくり」を流域内で広く普及、推進するため研修会を開催しました。

研修会は、四万十式作業道に精通している森林総合研究所の中岡科長（現群馬署長）をはじめ、管理局の担当者等から講演と現地において、四万十式道づくりの研修を受けたオペレーターによる施工の実演を見ながら実施しました。阿武隈川流域はもとより、広く県内各地から福島県、市町村の担当者や森林組合、林



道づくりを研修する参加者

業事業者等の林業関係者を中心に、約百二十名が集まり、現地で表土や根株を使った「表土ブロック積工法」や道づくりの基礎と応用について理解を深め、今後の普及について期待される研修会となりました。

(流域管理調整官 目黒竹男)

千葉県 稲毛区民まつりに参加

「千葉西」10月14日（日）、穴川中央公園において開催された第15回稲毛区民まつりに参加しました。区民まつりへの参加は今年で2回目、千葉県稲毛区に所を構える千葉県森林管理事務所として、もっと区民の皆様へPRをしようとして昨年度から参加を始めたものです。

当日は、公園内でダンスやマジック

クショー等の催しが行われ、地元企業、団体等のたくさんの方々が立ち並びました。天候にも恵まれ、公園は家族連れ等多くの来場者で賑わいました。

当所では、苗木の配布、パネルの展示、木の工作等の体験コーナー、職員手作りの木工品の販売等を行いました。木工品では、やまと秋らしくなったことも手伝って、季節物のマツボックリのクリスマスツリーが大人気でした。また、竹ポックリ作り・丸太切り体験のコーナーには長い行列ができ、子供達が体験するだけでなく、お父さん方も鋸を手に腕を披露したりと終始人が絶えず、スタッフとしては嬉しい悲鳴でした。

多くのお客様に当所テントを訪れて頂き、地元の皆様へPRできたのではと思います。



木工品販売コーナー「いらっしやいませ」

(指導普及担当主幹 佐川亜樹子)

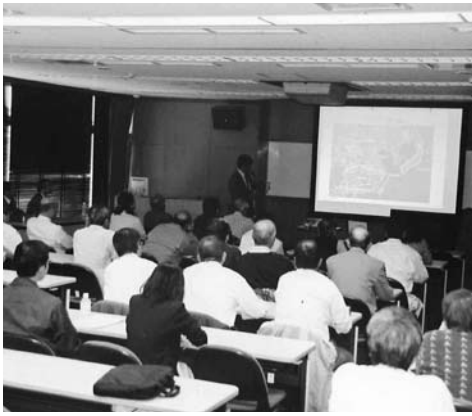
# 森林技術センターで 公開講座

「森林技術センター」森林技術センターでは、多くの皆さんに森林や林業について理解を深めていただくために森林・林業公開講座を開催しています。

本年度第1回目は、10月25日(木)に茨城県工業技術センター窯業指導所研修室において、講師に千葉県立中央博物館環境科学研究所長の原正利氏を迎えて開かれました。

講座は、原正利氏の「関東地方におけるブナ及びイヌブナの分布と生態」というテーマでの講演に始まり、その後森林技術センターが取り組んでいる研究課題「溪畔林の修復・再生に向けて」を発表しました。

参加した人は皆真剣なまなざしで聞き入り、各発表の区切りには質問



森林技術センターでの公開講座

を希望する人が多くいて、関心の高さがうかがえました。

講演内容の詳細については準備 coming 来次第森林技術センターのホームページに掲載する予定です。

(広報連絡官 大蔵正則)

# 国際アウトドア専門学校 による体験林業

【上越署】10月1日(月)、上越森林管理署長が、妙高市内にある「国際アウトドア専門学校」の「自然環境学科」の一年生18名を対象として、「森林・林業の動向について」をテーマに講話を行いました。

また、その翌10月2日(火)から4日(木)までは、笹ヶ峰高原夢見平の地蔵山国有林(妙高市)において、除間伐に係る体験林業が行われました。

この取組は、同専門学校から、「これまで群馬県内の民有林で林業実習を行っていたが、地元で開催したい」との相談があり、当署が体験林業の場の提供を行ったものです。

体験林業では、現地で、森林の育て方や安全な作業方法を学んだ後、除間伐木の選定作業、体験作業が行われました。

高校卒業後に入学された方や、社会人から入学された30歳代の方など年齢は様々でしたが、勉強意欲の高い方が多く、熱心に講話を聞くとともに、除間伐体験でも熱心に作業に



除間伐の体験林業

没頭していました。

また、この作業によって、カラマツ林等の景観も良くなり大変感謝しております。(広報連絡官 佐藤豊司)

# 高野小学校三年生に森林教室 元気づっぱい八溝山登山!

【棚倉署】7月12日(木)、棚倉町立高野小学校三年生16人の八溝山登山が行われました。

当日は、見事に晴れ渡り、小学校を元気づよく出発しました。

バスの中では、高野小学校の校歌にある、「むらさきけむる八溝山」の歌詞の意味を考え、八溝山と学校の歴史について理解を深めました。

これより、八溝山登山の開始です。八溝山頂付近は、貴重なブナ林が存在し、原生林的要素を残している美

しい森林です。生徒達には、歩きながら森林教室を実施し、ブナやクリ等の様々な樹木に触り、おいを嗅ぎ、熱心に話に聞き入っていました。

更に、日本名水百選に選ばれた八溝山湧水群の一つである銀性水に触れ、久慈川の源流について学びました。

また、樹木に興味深そうに観察しながら、八溝山頂上を目指しました。棚倉町は、昔から林業が盛んで緑豊かな地域ですが、地元の小学生でも、なかなか山に入る機会がないのが現状です。



森林教室での子供たち

(森林ふれあい係長 中原加奈子)

### クリーン活動を実施!

【茨城署】茨城県央に位置する御前山(標高193m)は、風光明媚な山として知られています。山麓には、那珂川の支流である皇都川が流れ、その清流とケヤキ展示林(122年生)はすばらしい景観を作り出しています。春先には、カタクリ、アズマイチゲ、イチリンソウ、ニリンソウ等が賑わいます。

しかし、ゴミのポイ捨てが後を絶ちません。11月8日(木)当署主催で「御前山ケヤキ展示林周辺クリーン活動」を行い、常陸大宮市立野口小学校五、六年生、城里町役場、自然公園指導員など合計30名と連携し、カン、ビン、ペットボトルなど約50キログラムのゴミを回収しました。



クリーン活動に参加した子供たち

今年で2回目の開催ですが、美しい景観を後世に残すため、地道に活動を続けていきたいと思えます。(業務第一課長 武藤敏雄)

### 農林祭りで国有林のPR

【埼玉所】10月20日(土)、21日(日)の両日とも天候に恵まれ、会場となった秩父ミューズパークは多くの来場者でにぎわいました。

当所は国有林PRのコーナーと、木工体験のコーナーを設け、PRのコーナーでは、パンフレットの配布等、国有林についての理解を深めていただきました。

また、木工体験では、糸のこ体験等を行い、お子さんから中高年の方まで多くの方に体験していただき、木の香りと温もりを感じていただけたのではないかと思います。



木工体験のコーナー

(広報連絡官 守谷 忍)

### 「国有林の地域別の森林計画」(案)

#### 縦覧のお知らせ

関東森林管理局長は、福島県の磐城国有林、群馬県の吾妻国有林、埼玉県の埼玉国有林、千葉県の千葉北部国有林、神奈川県の中越国有林の地域別の森林計画を樹立することとして縦覧を行ってまいります。

#### 1 縦覧の場所

関東森林管理局及び関係する森林管理署(森林管理事務所)なお、旧東京局分については、関東森林管理局東京事務所においても縦覧しています。

#### 2 縦覧の期間及び時間

平成19年11月16日(金)から平成19年12月17日(月)までの間。(閉庁時を除く)

#### 3 その他

ご案内は関東森林管理局ホームページにも掲載しています。なお、お問い合わせは計画課管理官まで。(電話027-210-1172)

### 新潟地区国有林野等

#### 所在市町村協議会を開催

11月8日(木)、村上市において新潟県下の国有林等が所在する市町村長及び関係森林管理署長等が一堂に会し、協議会を開催しました。

総会は、会長である胎内市長が議長を務め、18年度の決算報告と19年度の予算案について審議を行い、つづいて各森林管理署長等から、各署の取組事例や20年度の林野庁の予算概要を紹介し、情報交換を行いました。意見交換や質疑応答の後、来年度は上越署管内で協議会を実施することを了承し、閉会となりました。(新潟ブロック)



新潟ブロック有志協

# 森林官からののおたより

塩那森林管理署 矢板森林事務所

首席森林官 栗田喜則

本年8月から矢板森林事務所首席森林官を拝命しました来年厄年の栗田です。

東北局、中部局、北海道局、本庁勤務を得て、10年ぶりの森林官に再び就くことができたことに感激しております。

関東局勤務は初めてですが、十有余年の現場勤務の経験をいかして首席森林官の名に恥じないよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

さて、当森林事務所管内の国有林(3,841ハektar)は、栃木県北部の高原山系を中心とした南北約9km、東西約15kmにわたって広がっています。

高原山の一峰「剣ヶ峰」の東側の大間々台から学校平までの標高1,000m、面積約830haを八方自然休養林(通称八方ヶ原)に指定しています。

八方ヶ原には昔、軍馬牧場があり、そのため草木が軍馬に食べられてしまい、レンゲツツジが残ったと言われています。

「レンゲツツジ(蓮華躑躅)」の名前の由来は、一般に、花が輪状に並



作業現場での打合せ

んで咲く様子を蓮華(ハス)の花に例えた説と大群落をつくり咲く姿からという説があります。ツツジの漢名躑躅(ていちよく)は、足踏みすること、躊躇することなどで、羊躑躅は、有毒のシナレンゲツツジのことで、誤って食べた羊が毒にあたり躑躅する様子からつけられたそうです。レンゲツツジの別名は、ドクツツジ、オニツツジ等といわれており、花や葉、根に有毒成分(癌變毒)を含みます。

現在は、約20万株が群生しており、



レンゲツツジの枯枝除去作業

矢板市の花(市のキャッチフレーズは「つつじの郷やいた」です。)に指定されています。花期は、例年5月下旬から6月中旬頃で、この時期には大勢の花見客で賑わいを見せています。

一方、近年、寒風害等が原因と思われるレンゲツツジの枯損被害が発生しており、宇都宮大学名誉教授の谷本先生の御指導を受け、署と矢板市が協力し、署は当該箇所に調査区域を設けて、継続的な定点観察調査を実施し、市は市民ボランティアを募集し、景観維持のための枯れ枝の除去作業を実施しています。私も3人の子供を引き連れ、地域のこの活動に早速参加させて頂きました。来年、八方ヶ原のレンゲツツジが、見事に咲き誇る景観を期待しつつ、微力ながら尽力したいと考えていま



満開のレンゲツツジ

す。森林官として、10年前と現在を比べると直ようによる事業が大幅に減少したこと、分収育林・分収造林地が伐期に達していることや地域との繋がりが希薄になってきていることなどが年月を感じさせます。矢板の森林官として、仕事関係以外の地域の方たちと積極的に交流を深めるため、先だって行われた矢板市の「たかはらマラソン大会」や子供が入っている野球部、柔道部等の父母の会の活動、また、私が入っているバトミントン、ソフトボール等スポーツを通じ交流(反省会を含む)を深め、国有林への理解者等を増やしていきたいと考えています。さあ！今日も地下足袋と弁当持ってやまいくべえ。



# 私の視点

## 三面川の鮭と「さけの森林づくり」

三面川鮭産漁業協同組合  
代表理事組合長 高橋 昭太郎

村上市には、朝日連峰を源と発し、大小の支流を合流して日本海に流入する新潟県を代表する二級河川「三面川」が流れています。

三面川では古くから鮭漁が盛んで、平安時代には京都まで送り食されたと伝えられています。江戸時代に入り村上藩の下級武士青砥武平治綱義により他に先駆けて鮭の自然ふ化増殖が行われ、今日の村上の塩引き鮭を始め鮭の食文化の歴史が作られました。また、平成10年に村上市において、第1回全国さけサミットが開催されるなど全国的にもその名が知られることとなりました。

私は、平成11年に当時の関東森林管理局長と三面川を視察する機会に恵まれその時、今なお上流部には原



代表理事組合長 高橋 昭太郎氏



さけの森林づくり・ブナの植栽風景

生林が多く、豊かな大自然の中から清冽に澄んだ水の流れに心が奪われ、流域の歴史と文化を刻みながら他の川では見られない独自の川の文化を育んできた「豊かな川」、「豊かな海」を守る「豊かな森林」が大切であることを痛感し、流域の自治体、漁業協同組合、建設業協会、観光協会及び自然保護団体等に、先人達の築き上げてきた「さけの川」を未来の子供達に引き継ぐため「さけの森林」を守ろうと呼びかけ、平成11年に「さけの森林づくり推進協議会」を設立しました。

森林は、再生可能な循環資源というだけではなく国土保全、水源かん養、地球温暖化防止など魔法の要、器でもあります。そしてまた、漁業も森の恵みに支えられており、森林で濾過された綺麗な水が海に送り出され、豊かな海を育ててくれます。

豊かな川や豊かな海づくりに森林が如何に重要であるかを啓発するため、毎年秋の恒例行事として多くの参加者を得て「さけの森林づくり」活動が行われ、今年で7回となりました。

こうした活動が認められ、11月11日滋賀県で行われた「全国豊かな海づくり大会」でさけの森林づくり推進協議会が「大会会長賞」を受賞する栄誉に浴しましたことは大変名誉なことでありました。

山づくりは人づくりとも言われて



三面川だけに残る伝統漁法「居繰網漁」-①



サケ文化「鮭の酒びたし」

おりますが、森の恵みを抜きにして私たちの生活は語れないということも忘れてはならないことだと思えます。

百年先の仕事といわれる森林の再生、それが今生きる私たちの務めでもあります。こうした我々の小さい流れが必ずや大河となることを信じ続けて行きたいと思えます。

今年も、三面川で育った稚魚が大きくなり沢山の鮭が三面川に戻ってきています。いつまでも、三面川が豊かなさけの川であることを祈って。



三面川だけに残る伝統漁法「居繰網漁」-②

# 美しい森林づくり

## 「あかぎ親しみの森」秋の整備

平成19年2月に「美しい森林づくり推進国民運動」を、幅広い国民の皆様のご理解とご協力のもと、政府一体となって展開していくことが関係閣僚会合において決定され、関東森林管理局においても、企業やNPOが行う森林の保全活動や体験活動など、国民参加の森林づくりへの支援を積極的に進めています。

このような中、たくさんさんのボランティアの皆さんに支えられ、今年で十周年を迎えた国民参加の森林づくりの取組を紹介します。

あかぎ親しみの森は、平成10年に群馬県で実施された第49回全国植樹祭を記念して、赤城山国有林に設定されました。

平成12年3月30日には、NPO法人「森の会」、赤城村（現渋川市）、局の三者が協定を締結し、春と秋の年2回、本年秋の整備で20回のボランティア活動が行われてきました。



挨拶をする計画部長

設定から10年という節目となった今年は、春に記念植樹を実施し、秋の取組として11月11日（日）に、その周辺の森林整備等を行いました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、ボランティアの皆さん50名が参加し、安全作業に努めながら枯れた木を伐採したり、絡んだつるを除去したりしました。

開会式では、藤江計画部長から、長年にわたりボランティア活動を支えてこられた参加者の皆さんへの感謝と「美しい森林づくり推進国民運動」への参加の呼びかけがあり、式典会場には、局作成の「美しい森林づくり推進国民運動」の幟を掲げて意識の高揚を図ったところです。

なお、国民参加の森林づくりのためのフィールド提供などについてのお問い合わせは、関東森林管理局指導普及課までご連絡をいただきたいと思います。

(指導普及課)

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課

TEL(027)210-1158  
FAX(027)210-1159

## 一枚の写真



### 大水害「8.28羽越災害」

昭和42年8月28日、日本海に発生した低気圧が三陸沖を通過し、この低気圧から西にのびる前線が新潟付近を経て朝鮮半島まで達しました。

この前線上に発生した低気圧の影響で28日夜から新潟県北部で雨が強まり、三面（朝日村）では3時間の雨量が96ミリを記録しました。

雨域の南下で、翌29日には加治川周辺で異常降雨をもたらし、3時間の雨量は新潟市で96ミリ、二王子岳で88ミリを記録しました。被害は90市町村に及び、山沿

いの集落では山くずれや土石流により多くの死者・行方不明者がでました。

岩船、北蒲原方面で被害が集中し、死者96人、行方不明者38人、重軽傷者471人、住宅全壊流失1,079世帯、半壊2,076世帯、床上浸水17,191世帯、被災者数311,514人に及びました。

「9時30分、「ゴォーッ」という無気味な音、アットという間に土石流で埋め尽くされ、さらに13歳の息子が深夜の濁流にのまれてしまった。(中略) 長い夜だった。

た、夜明けを待ちきれず(中略)わが子呼びながら村下をさまよった。(中略) きつとどこかで生きていて「お母さん」とよんでくれる。何度も何度も心にかけて聞かせた。(後略) (土石流の中を2キロ、17時間濁流に流され奇跡的に助かった胎内中学校1年生男子の母親の体験記から)

ちょうど40年前に発生した未曾有の大水害「8・28羽越災害」である。災害は忘れた頃にやってくる。教訓としなければなりません。(下越署 広報連絡官 佐藤義雄)

